

WHO Report

ウォーキング・ホリデー・オギクボ

2022年10月号

NO. 252

東京西ワイスメンズクラブ・東京YMCA杉並センター

野川下り⑤「懐かしい秋」調布から喜多見へ

2か月の夏休み明けの9月は、皆さんの期待が大きかったのですが、当日は記録的な大雨となり、雨中11人で歩きましたが、コース後半で無念、打ち切りました。

10月は、9月に断念した見どころを訪ねてから調布を歩き終え、世田谷区に喜多見から入ります。野川沿いの道には、かつては当たり前だった“秋”があります。川と人と社寺とが寄り添い、綴ってきた歴史を感じます。国分寺崖線の湧き水が、そこここで自己主張をしています。

広い秋空のもと、「懐かしい秋」を満喫しましょう。

245回WHOウォーキングのご案内

期 日：2022年10月22日(第4土曜日)

コース：京王線調布駅<バス>-佐須-虎
狛神社-祇園寺-榎橋-旧榎橋欄干
-榎橋-馬橋(甲州街道)-大町橋-
野川橋-野川大橋-糟嶺神社-小足
立橋-入間川合流点-きたのふれあ
い広場(北口→南口)-(車輛基地)-
喜多見不動堂-小田急線喜多見駅

集合・出発：京王線調布駅中央口を出てエス
カレーターで地上に上がった、交番
前。10:00(時間厳守)

受 付：初回の方は、必ず住所を書いてくだ
さい。これまで書いていない方もお
願いします。

解 散：小田急線喜多見駅 14:30頃

携行品：名札、マスク、健康保険証、弁当、
飲料、雨具、4月にお渡したパンフ
レット『野川マップ』は、シリーズ
終了までご持参ください。今回、初
回参加の方にはお渡しします。

参加費：300円、交通費、施設利用代は各自



負担。初参加の方は、名札代 200 円。
(必ず装着してください)。

みどころ

調布の地名：古代の税制「租庸調」のうち、
調として布を納めていたことから江戸時
代に出た言葉。明治 22 年に調布市の前身
調布町が生まれた時に町名とした。

野川の水路：野川は国分寺崖線からの湧き水
を集めた文字通り「野の川」であった。流
域の都市化に合わせ昭和 31 年以来改修が
行なわれて現在の姿がある。場所によって
川に降りて小径を歩ける。

琥珀神社：社伝によると、589(崇峻 2)年創
建、927(延長 5)年の延喜式の神名帳に

その名が記されている。農業の神を祀る。現社殿は1683（天和3年）に建造され調布市、狛江市で最古である。

祇園寺: 730（天平2）年、または750（天平勝宝2）年に深大寺の満功上人が創建。虎狛神社の別当寺。明治時代、自由民権運動の拠点で後に板垣退助が植樹した「自由の松」がある。「野鳥の父」と言われた中西悟堂の父、中西悟玄が住職だった。

旧榎橋欄干: 野川の改修工事によって役目を終えた石造りの旧榎橋の欄干が現榎橋の南、三鷹街道沿いに保存されている。

入間川: 深大寺付近を水源とした野川の支流。現在は水量も少なく、暗渠部分が増えている。合流地点は野川右岸からが見やすい。

喜多見: 古くは木田（多）見郷などと言われていたが、江戸城付近本拠にしていた江戸氏が頼朝からこの地を与えられ移転してきたとされる。市内にある慶元寺は、江戸城紅葉山にあった江戸家の菩提寺を移転したと伝えられている。徳川家康が江戸入城に際して、江戸家は家名を喜多見と改めた。喜多見氏はその後、1万石の大名となり、側用人に取り立てられた。しかしある事件のためお家土地断絶となった。

きたみふれあい広場: 小田急電鉄の車輛基地の屋上を人工地盤として、緑地を設けた。芝生広場、とんぼ池、花壇がある。地上からスロープで上下できる、10mの高さがあり、國分寺崖線の連なりを一望できる。

喜多見不動堂: 現住所は「成城」であるが、かつては、「東京府下荏原郡砧村大字喜多見であるためにその名がある。明治時代多摩川に洪水で流れ着いた尊像を安置している。市内慶元寺の境外仏堂。かつては境内のハケの滝で水行が行なわれていた。

雨中で栗を拾った「里の秋」 —9月例会報告—

9月例会は、2か月の夏休み明けのためか、「今月は参加する」というメールや電話が多く飛び交っていたようです。

ところが、数日前から、「線状降雨帯」、「記録的突風」「記録的大雨」と漢字だらけの予報。24日は前日からの雨は降り止まず、大雨まだ、雷

もという予報。三鷹駅に集合したのは、11人。行けるところまで行こうと決しました。

三鷹大沢の里は、1808（文化5）年製の水車を持つ水車経営農家と、養蚕、ワサビ栽培をしていた古民家、稲田と畑の構成です。この日は、稲田で小学生の稲刈りの予定です。田植えから見守ってきた小学生ですが、雨のため中止になってしまいました。可哀想でしたが、子どもたちは何を学んだでしょう。私たちはガイドから両家それぞれに説明を聞きました。

雨の中を歩き出したら、稲田の脇の道にこの朝落ちたであろう栗のイガが無数ありました。実は11人で1粒しか拾えませんでした。それでも小さな「里の秋」が感じることができました。

ほとんど寄り道もせず、休みもせず、11人が古刹深大寺へ。いつもは賑わっている山門前は人もまばらでした。濡れたベンチで傘を差してお弁当というわけにもいかず、衆議一決、「元祖深大寺ソバ」の嶋田家に入りました。店内は余裕がありました。向き合って座り、マスクを外すと、「マスクしてくれませんか、素顔だと名前がわからない」などと、しばしの談笑。

深大寺は、天平5（722）年開山の東日本屈指の古刹。境内を散策し、5年前に寺内の物置で発見されて国宝に指定された白鳳期釈迦如来倚像を拝観しました。新薬師寺の香薬師像、法隆寺の夢違観音像と共通点があり「白鳳三仏」とされています。若々しく青年のようと言われるお顔が暗くてよく見えなかったのが残念。

ここらが潮時と、最後は、神代植物公園の分園、水生植物園と深大寺城址を巡り、コース途中で解散し、それぞれバスに乗りました。

実は、この日は、コロナ対策のため、小グループでガイド付きの見学を予定していました。昼食ぐらい広い場所で、皆と顔を合わせたいと、深大寺城の城郭跡の芝生広場を予定していました。ところが、下見の時、夏草が伸びて座るところではありませんでした。諦めて帰り、一晩寝たら、「そうだ、草は刈ってもらえばいいんだ」。管理事務所に電話したら、「9月18日までには刈り終える予定になっています」。しかし、大雨のため、刈りたての芝生でのお弁当は、深大寺蕎麦に代わってしまいました。（吉田明弘）

感謝 9月に84円切手50円を郵送いただきました。感謝して報告いたします。